

出張報告書(海外用)

1/6頁

| | | | | | |
|-------------------------|--|---------------|------------------|---|----------------------|
| 所属 (大学・短大) | 京都文教大学 | 所属 (学科・部署) | 総合社会学科 | 提出日 | 2025年12月5日 |
| 職名 | 教授 | 出張者氏名 | 潘 宏立 |  | |
| 日時 | 2025年11月3日 (月) | 5時30分 | ～ 2025年11月8日 (土) | 10時30分 | うち機中泊 2025年6月11日 - 泊 |
| 行先 | マレーシアのクアラルンプール | | | | |
| 目的・内容 | マレーシア(マラヤ大学)で挙げる国際シンポジウム「第12届海外華人国際学術研討会(第12回海外華人国際学術シンポジウム)」の参加・研究発表 | | | | |
| 主催学会 団体等 | 世界海外華人研究学会(ISSCO) | | | | |
| 研究・ 調査・ 発表等 概要 | <p>世界海外華人研究学会(ISSCO)は国際上最も権威的な華僑・華人研究学会で、私が所属している日本華僑華人学会はその傘下にある。2017年11月、世界海外華人研究学会と日本華僑華人学会が長崎大学で挙行した国際学術シンポジウムに参加してから、8年ぶりのご参加となり、この8年間の媽祖や日本華僑に関する調査研究の成果を各国の華僑華人研究者に紹介し、また、各国の参加者から最新の研究成果を教えてもらい、互いに交流を深め、非常に有意義な研究出張となったと思う。私も事前準備をしっかりと行ったので、研究発表も良い評価が得られた(コメントや質問のことから判断)。また、本学のともいき共同研究の状況や研究成果も各国の学者たちにアピールをした。</p> <p>その経過は次の通りです。初日、午後4時頃にクアラルンプール着陸、市内のホテルに到着後から夜まで会議主催のマラヤ大学の先生および他国から来た学者らと交流。翌日、シンポジウムに出席し、関係セッションに参加し、研究発表を聴講した。また、休憩の際に各国からの学者らと交流。今回、世界各国からの参加者数は主催者の推測より倍を超えた600人ほど多くて、大盛況でした。三日目もシンポジウムに出席し、聴講や交流の他、自分の研究発表を行った。大教室での発表ですが、参加者が多かった。その後の良いコメントを頂いたや参加者からの熱心な質問への回答などで良い交流ができたと感じる。四日目は、学会主催の文化考察に参加し、各国の学者と一緒にクアラルンプール市内の国家記念碑、吉隆坡師爺廟拓荒博物館、仙四師爺宮、チャイナタウン、関帝廟などを訪問・調査し、マレーシアの華僑・華人の歴史や文化への理解に役立った。文化考察終了後の午後2時過ぎ、アラヤ大学の林教授は自家用車で私を連れてセランゴール州巴生(Klang)、吉胆島(Pulau Ketam)などへ訪問・調査しに行った。訪問・調査先はマレーシア華人の班達馬蘭新村(KAMPUNG BARU PANDAMARAN)と、吉胆島(漁村)を現地訪問・調査した。とくに吉胆島に暮らしている華人が殆ど福建系で、島にある宗親会、同郷会、媽祖廟、拿督公廟(中国の土地公とマレーシア信仰の習合した廟)などを中心に観察調査した。林教授からいろいろご教示を頂いた。最終日では、アラヤ大学の博士院生は案内してもらい、日本華僑華人学会理事・天理大学教授の芹澤先生と一緒にマラヤ大学博物館、マレーシア国家博物館へ訪問・見学した後、厦門大学マレーシア分校に訪問した。厦門大学は華僑が創立した大学で、現在、東南アジアの華僑・華人を多く育てている大学から、華僑研究においてとても重要な課題の一つでもあります。夜、LCCであるスクート航空便にてシンガポール国際空港経由で翌朝に関西空港へ向かい、午後5時過ぎ帰宅した。</p> <p>今回の研究出張の詳細経過は次の頁をご参照ください。</p> | | | | |
| 研究・ 成果 概要 発表等 | <p>まず、長年にわたった日本媽祖の調査研究から見た関西福建系華僑団体との歴史のおよび現在の深い関係に関する研究成果を発表し、世界各国の華僑華人研究者と交流することができた。</p> <p>今回の研究発表の目的は、日本の華僑社会のなか、特に関西地域における福建系華僑団体と媽祖信仰など中華伝統文化の維持や継承に関する調査研究成果を各国華人研究者に紹介し、日本の華僑社会と伝統文化の継承の特徴を諸外国の状況と比較し、現在における海外華人社会の多様性と共通点をより究明しようとした。私の研究発表の要旨は次の通りです。</p> <p>テーマ：日本阪神地域における閩籍華僑同郷組織と関帝・媽祖信仰の維持・伝承</p> <p>19世紀中期以降、日本本州地域の対外開放に伴い、華僑華人は関西地域の大阪・神戸へ移住し、中国の伝統的宗教文化も京阪神地域の華僑社会へと伝播し、長期にわたり根付いてきた。世界各地の華僑社会と同様に、大阪・神戸・京都の華僑は関帝および媽祖信仰をもたらし、媽祖像の多くは関帝廟において主神の一つとして祀られている。</p> <p>関帝は忠義・仁勇の象徴として知られ、歴代王朝から数多くの諡号を授けられ、その信仰はきわめて広範かつ悠久であり、商業界では財神として崇敬されてきた。華僑華人が海外へ渡る主な目的は商機の開拓であり、財神たる関帝の加護は不可欠であった。一方、航海の守護神である媽祖は、遠洋渡航する華僑華人にとって平安と幸福をもたらす存在である。こうした背景から、関帝・媽祖信仰は在日華人の足跡とともに日本各地へ広く伝わった。現代において、京阪神地域の福建籍華僑華人同郷組織は、関帝・媽祖信仰文化を支える最も重要な担い手となっている。近年、約一世紀ぶりに新たな大阪関帝媽祖廟が大阪市中心部に建立されたことは、閩籍在日華僑華人が京阪神地域における関帝・媽祖信仰文化の新たな発展を推進した象徴的事例である。本発表は、先行研究および筆者のフィールドワークの成果を踏まえ、関帝・媽祖信仰の大阪・神戸への伝来過程、華人同郷組織が果たす維持・促進の役割、さらに近年の新たな動向について予備的な分析を行う。これにより、日本関西地域における関帝・媽祖信仰文化発展の歴史的脈絡と継承の現状を整理し、当地華人社会において同信仰文化が果たす重要な役割を明らかにすることを目的とする。</p> <p>また、マレーシアでの文化考察や現地調査、さらに厦門大学マレーシア分校への訪問を行い、マレーシア華僑華人の歴史と現状、伝統文化の保持や多文化共生の実状をより深く理解するようになった。</p> | | | | |

○本出張によって得られた研究成果を下記①～⑤で発表の予定があれば該当するものを記入してください。

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）、
- ②図書（著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）、
- ④授業での活用、
- ⑤その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

| | | |
|--------|---|---|
| 研究成果記入 | ① | |
| | ② | |
| | ③ | 調査資料（映像を含む）「アジア地域論」、「中国の文化と社会」また潘ゼミの授業で活用する。 |
| | ④ | 調査資料は今年11月予定している世界華僑華人研究大会や媽祖信仰国際シンポジウムでの研究発表で活用する。 |
| | ⑤ | |

○該当するものを以下に記載し、添付資料としてご提出願います。【必須】

| | 発表の方 | 調査の方 | セミナー参加者 |
|-----|------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 記入例 | プログラム、抄録、原稿、PPTスライド等の写し 記録写真 | 収集資料写し、調査状況関連の資料等の写し、記録写真 | 配布資料写し、講義記録写し、記録写真 |

| | | |
|------------|---|-------------|
| 添付書類記入【必須】 | ① | プログラム |
| | ② | 抄録 |
| | ③ | 原稿 |
| | ④ | PPTスライド等の写し |
| | ⑤ | 記録写真を提出する。 |

次ページからの写真資料等はWebページでの公開を省略させていただきます